

学位被授与者氏名	長岡 節子（ながおか せつこ）
論文題目	「欧州におけるロマ問題に対する国際システムの対応 －『ロマ包摂の10年』が示す限界」
論文審査結果の要旨	<p>日本におけるロマ研究は、歴史や文化的な側面についてはあるものの、今日的政策課題として国際関係論から捉えたものは数少ない。そのような状況のもと、長岡氏は海外の文献を数多く渉猟し、丹念にそれらを読み解いたうえで論を展開している。巻末の引用・参考文献リストからも、長岡氏が丹念に調べ上げあげたことが見て取れる。</p> <p>氏が取り上げた「ロマ問題」は古くから欧州を悩ませてきた問題であるが、21世紀に入って以降、大きな変化が認められる問題でもある。氏が指摘するように、ロマ問題は欧州連合加盟を目指すバルカン半島諸国にとっては政治的課題であったが、加盟が実現されるとその勢いに陰りが見えるなど、ロマ問題解決に向けた政治的姿勢は表層的であると言える。このように、氏はロマ問題を広く欧州ならびに国際社会における政治力学から読み解こうとしており、国際関係論視座からロマ問題を捉えることは、これまでのロマ研究に無い部分を補うという点で意義があると言える。</p> <p>また、これは修士論文そのものの直接的な評価ではないが、修士論文を執筆する過程で、ロマに関する研究会に所属し、研究会に出席して報告を行うなど、積極的にロマ研究を行ってきた。研究会で得た知見と報告に対して寄せられたコメントなどを盛り込みながら、本論文の執筆につなげるなど、意欲的に修士論文の作成に取り組んできたことも大いに評価に値する。</p> <p>平成31年2月12日に、北九州市立大学北方キャンパス本館B202教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士（国際学）として十分な内容であると判定した。</p>